

いでながら H. L. Li 氏の Woody Fl. Taiwan, Fig. 322 に図示されている Asclepiadaceae の *Cynanchum formosanum* は Asclepiadaceae のものでなく Apocynaceae の *Parsonsia laevigata* そのものである。

Parsonsia laevigata (Moon) Alston in Ann. Roy. Bot. Gard. Peradeniya **11**: 203 (1929) non vidi, Pichon in Notul. Syst. **14**: 16 (1950)—*Echites laevigata* Moon, Cat. Pl. Ceylon: 20 (1824) non vidi—*Parsonsia helicandra* Hook. et Arnott, Bot. Beech. Voy.: 197 (1841), Merrill in Brittonia **1**: 236 (1933), H. L. Li, Wood. Fl. Taiwan: 790 (1963), Hatusima et Amano, Fl. Okinawa rev. ed.: 91 (1967)—*Cynanchum formosanum* (non Hemsl.) sensu H. L. Li, Wood. Fl. Taiwan, p. 800, fig. 322 (1963) excl. descr. (東京大学理学部植物学教室)

○小笠原島産の植物名と旧漂流植民者の呼称との関連 (津山 尚) Takasi TUYAMA: On the relationship of the plant names on the Bonin Islands and the Sandwich Islands.

小笠原島に産する顕花植物の中、ハワイ島名と関係のあるものをいくつか拾って見る。記録によると、天保10年にハワイから漂流者がここに来て定着したといわれる。当然彼等はハワイでの植物の知識で小笠原島の植物を利用し、命名したはずである。これらのことは本草学時代の日本の文献にも載っていて、これについては前々から草稿が用意されているが、ここでは現代の日本で生きている和名についての例を挙げる。

1. モンテンボク *Hibiscus glaber* Matsumura モンテンボクとして日本植物総覧に載っている。これは Mountain Hao, または Mountain Haw tree の、松村任三教授による日本訳が、標準和名として通用した例である。ハワイの文献を読むと、Hao または Haw tree は、同地で色々の樹木にあてられているが、*Hibiscus* 属にも用いられている。Hao または Haw は tree と訳すべきものではないが、そのようにここでは(松村先生には)受取られたようである。

2. ヤロード *Ochrosia Nakaiana* (Koidz.) Koidz. ヤロードは yellow wood で、ハワイ語の持込みというよりも、帰化人中の英語を話す人によってつけられた名であろう。材は事実黄色である。

3. タコノキ *Pandanus boninensis* Warb. タコノキ、島名ルーワラ、種類は異なるがハワイ語で *Pandanus* を Louhala tree とよんでいる。

4. シマカナメモチ *Photinia wrightiana* Maxim. 島名サンドル、これには一寸説明がある。大体は Axe-handle tree の転化で、日本のカマツカの手で、実用にもされた。北硫黄島の本来の名は San Alessandro Isl. で、これも戦争前に一般の小笠原島の人々によってサンドルと略称されていた。これへの連想もサンドル名の形成に役立っているものと思われる。

5. ムニンディコ *Erythrina boninensis* Tuyama 島名ビーデビーデ、これは Ha-

waii での *Erythrina* の一般名 Wili Wili tree から来ている。戦後、八丈島のことを歌った“パーデビーデの歌”というのが一時流行したことを覚えている。

まだいろいろ他の例があるが、また別の機会にする。上記の学名は著者の現在の分類学的意見を現わしているものではないことをお断りします。(お茶の水女子大学)

○イソマツの学名について (原 寛) Hiroshi HARA: On the correct name for a purple-flowered race of *Limonium Wrightii*

本誌 21: 16 (1947) および日本種子植物集覧 1: 99 (1949) で、イソマツには淡紫花品と淡黄花品があり、分布を異にしているので別変種として扱うのがよいとの見解をのべた。その際には *Statice Wrightii* Hance の花色が不明であったので、紫花品を var. *roseum*, 黄花品 (ウコンイソマツ) を var. *luteum* と名付けておいた。

最近 E. H. Walker 博士から *Statice Wrightii* の複基準標本がワシントンの国立腊葉館にあり、それは黄花品であるので、現行命名国際規約上紫花品の学名を変更する必要があるので善処するようにとの親切な注意をうけた。

すなわち *Statice Wrightii* が黄花品であれば、ウコンイソマツの学名は命名規約により *Limonium Wrightii* var. *Wrightii* となる。一方紫花のイソマツには、var. *roseum* Hara が新しいタイプによる変種名ではなく *Statice Wrightii* を引用した名であり、後者が黄花品であることが分かったのでそれを使用できず、従って紫花品には次のように var. *arbusculum* (Maxim.) の新組合わせをつくるのが適当である。

Recently Dr. E. H. Walker of Washington, D. C. has kindly called my attention to the correct varietal name for a purple-flowered race of *Limonium Wrightii*. An isotype specimen (Loo-Choo, C. Wright) of *Statice Wrightii* preserved at the U.S. National Herbarium was now proved to have yellow flowers, so the following nomenclatural change is needed for a purple-flowered race.

Limonium Wrightii (Hance) O. Kuntze, Rev. Gen. Pl. 2: 395 (1891)-Hara, Enum. Spermat. Jap. 1: 99 (1949).

var. ***Wrightii***. ウコンイソマツ

Statice Wrightii Hance in Ann. Sci. Nat. ser. 5, 5: 236 (1866).

Limonium arbusculum var. *luteum* Hara in Journ. Jap. Bot. 21: 19 (1947).

L. Wrightii var. *luteum* (Hara) Hara, Enum. Spermat. Jap. 1: 99 (1949).

L. Wrightii var. *roseum* Hara, l. c. (1949).

var. ***arbusculum*** (Maxim.) Hara, comb. nov. イソマツ

S. arbuscula Maxim. in Trautv., Regel, Maxim. et Winkl., Decas Pl. Nov. 8 (1882).